

Reitaku Association for Overseas Development

麗澤海外開発協会 会報

平成17年
(2005年)
12月1日
第5号

第3巻 第2号
年2回発行

主な記事

巻頭言 挨拶(竹原 茂)
特集 タイ北部 教育支援活動
報告 麗澤大学タイ・スタディツアー
その他 寄付金等の報告

発行所: 財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

「教育」の視点に立った国際協力

(財)麗澤海外開発協会理事・麗澤大学教授 竹原 茂



1975年(昭和50年)、私はラオスからの政治難民として日本に亡命しました。その厳しい境遇の中で、廣池千太郎・モラロジー研究所前所長(麗澤海外開発協会初代会長)や廣池幹堂・現理事長

(同協会会長)等との出会いによって麗澤海外開発協会や麗澤大学での役割を頂き、今日までラオス、アジア、そして日本を通して難民救援活動や国際ボランティア活動に努めてきました。

麗澤海外開発協会は、1971年に外務省所管の公益法人として創設されて以来、発展途上国における文化・経済の発展に資する人材の育成と技術指導を推進し、現在は主にネパールでの鍼灸専門家の育成および無料巡回治療を実施する事業への助成、タイ北部での少数民族の子供たちの生活・教育施設の運営(メーコック財団)等への助成を行っております。

私も当協会の一員として国際ボランティア活動に携わっていますが、この活動は経済的な支援だけでなく、常に「教育」という視点に立って進めることが重要だと思っています。現在、麗澤大学で国際協力論やタイ語、東南アジアの社会と文化を教えています。その一方で、私の経験を学生たちに話し、「難民とは何か」「貧困とは何か」「少数民族とは何か」を共に考え、本当の意味の国際協力を伝えるように努めています。その一環として、学生を連れてタイ少数民族の生活を視察し、ボランティアを体験する「タイ・スタディツアー」等を毎年実施しています。

麗澤海外開発協会では、一昨年から「竹原基金」を設けていただき、東南アジア諸国で貧困等の理由で学

校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業も推進しています。東南アジアには、小学校を卒業しても、貧しいために中学校へ進学できない子供たちが大勢います。この基金の目的は、タイやラオス、カンボジアなど東南アジアの貧しい子供たちや少数民族の子供たちの教育を支援することにあります。当協会へのご入会ならびに竹原基金等に対しては、これまでに皆様方にご多大のご協力をいただいております。紙上をお借りして厚く御礼を申し上げます。

麗澤海外開発協会では、これまでの経験と実績を踏まえ、廣池幹堂会長のもと、発展途上国を中心とする心の通う国際協力・支援活動のいっそうの推進に向けて努力してまいります。そのためには、皆様方のご支援とご協力が不可欠です。ぜひとも多くの方々からのご支援を心からお願いいたします。



メーコック財団の子供とスタッフの赤ちゃん

<プロフィール>

旧名ウドム・ラタナヴォン。1943年、ラオスに生まれる。1965年、文部省(当時)の国費留学生として来日。東京外国語大学を経て一橋大学経済学部を卒業し、ラオス政府経済計画省計画課長を務める。74年、再度来日して一橋大学大学院に入学。75年、ラオスでの共産党政権樹立によって帰国を断念して日本に亡命。以後、精力的に難民救済運動、国籍法改正運動、タイのメーコック・ファーム(現・メーコック財団)の設立・支援活動等に携わる。現在、麗澤大学外国語学部教授、麗澤海外開発協会理事。著書に『ラオス概説』(共著・めこん社)、『ラオス・日本、アジアに生きる 異文化理解と国際協力の理想を求めて』(麗澤大学出版会)等がある。

特集 タイ北部 教育支援活動

～ メーコック財団を訪ねて ～

麗澤海外開発協会では、タイ北部での少数民族の子供たちの生活・教育施設の運営(メーコック財団)等への助成も推進しています。そこで、さる10月28日から11月3日までタイ北部視察旅行(当協会評議員・横山守男等4名が参加)を実施し、タイ北部にあるメーコック財団の教育現状等を視察しました。ここでは、主に同財団の教育現状や子供たちの生活等について報告します。

どんな活動をしているのか?

タイ北部には、昔から山岳少数民族を中心とした、教育を受けられない多くの人々が、貧困や麻薬、売春、エイズといった問題を抱えながら生活してきました。当初はそういった現状を視察するための「スタディツアー」を中心に活動を展開し、1996年からは麻薬中毒患者のリハビリテーションと職業訓練のプロジェクトを約5年間行い、大きな成果を上げました。また2000年からは、その活動のメインを教育支援活動に移し、貧しくて教育を受ける機会に恵まれない子供たちを受け入れ、寮生活を通じた「自立」のための教育活動を行ったり、村や学校、政府と協力しながら地域への教育支援などを行ったりしています。

当協会では現地で活動するメーコック財団と協力し、タイ北部の教育施設において教育支援や職業訓練を行い、子供たちの自立を目指しています。



タイの民族衣装を着たメーコックの子供たち

何人で活動しているのか?

財団で生活する子供たち：24名(男10名、女14名)
 ・5歳から17歳までの子供たち
 ・アカ族20名、ラフ族2名、シャン族1名、タイ人1名
 活動スタッフ：3名(活動責任者のピパット氏を含む)
 財団役員：会長など含む8名
 財団相談役：9名

スタッフの仕事は?

スタッフの主な役割は、財団で生活する子供たちのために、学校までの送り迎えや食糧・衣類等の調達など、身の回りの世話をしながら彼らに知識・技術や道徳を「教育」することです。勉強についてはもちろん、料理や洗濯、掃除といった基本的なことから、農業技術や家畜の飼育方法、ハンディクラフト等の技術など、彼らが将来的に自立した生活を送るために必要な様々な物事を教えています。このほかにも、財団の経営面での仕事や、スタディツアー等で訪れる方々のお世話も行うなど、忙しい毎日を送っている様子が見えがえします。



土の積み指導をするスタッフ



ハンディクラフトの練習

子供たちの1日の生活は?

財団に住む子供たちは、「自分たちのことは自分たちで」という方針で日々生活しています。したがって、規則正しく、また自主性を重んじた毎日を送っています。

- 5:00 起床、掃除食事の準備など各自で当番の仕事をする
- 6:00 朝食、登校の支度
- 7:00 登校
- 7:30～ 授業、学校での活動
- 16:30 下校
- 17:00 家畜の世話など各自で当番の仕事をする
- 18:00 夕食、学校の宿題、勉強、読書など
- 21:00 就寝

土曜日は、天候によってマッシュルームの栽培や畑の作業、溶接訓練など、職業訓練的なことも行います。当番の仕事や各自の洗濯などが終わると自由時間になり、サッカーやセパタクロー(球技の一種)で遊んだり、ギターを弾いたり刺繍をしたりしています。日曜日には、午前中は教会へ行き道徳精神の教育を受け、午後は土曜日の自由時間のような過ごし方をしているようです。



学校から帰って自習する子供たち

このように多くの時間が「自立」のための「訓練」にあてられていますが、それでも子供たちは、規則正しい生活を楽しみ、また、このような日々を送れることに感謝をしながら、毎日元気に生活しているのです。

子供たちに質問しました



中央の4名にインタビューしました

今回、ピパット氏の協力のもと、メーコック財団で生活する子供たち（代表4名）にインタビューをすることができました。彼らは今の生活のことや将来への思いなどを、熱心に、そして素直に語ってくれました。

メーコック財団での生活はどうか？

とても楽しいです。忙しいとか大変だとは思いません。早起きももう慣れてるので平気です。

ここにいればいろいろなことが学べるので楽しいです。

自分の家みたいなところですよ。時々問題もありますが、ピパット先生やスタッフの方が指導してくださるので、とても助かっています。

先生たちは怖いですか？

そんなことはありません。何でも相談できるし、家族みたいです。

学校は楽しいですか？

すごく楽しいです。

今年の5月にパーサー小学校からサハサート・スクールというチェンライの町の中にある学校に移ったのですが、教育の質が高くなったので、たくさん勉強することができます。

学校で一番楽しいと思うことはなんですか？

図書室で本を読んでいるのが好きです。

私は数学の勉強がな。

僕は理科の勉強が一番面白くて好きです。でも遊びも勉強も、すべてが楽しいです。

これからもっと勉強したいことはありますか？

職業訓練ができるような学校に興味があります。技術系の専門学校に行ってみたいです。

将来やりたいことはなんですか？

困っている人を助けられるような事がしたいです。

僕も、自分が周りの人に助けられたように、今度は自分が貧しい人のために何かしていきたいです。

自分で電気関係の会社をつくりたいです。そして社会や人のために役立つようになりたいです。

私は、もしできたらここに残ってピパット先生やスタッフの人を手伝ってあげたいと思っています。

インタビューの後、子供たちのほうから、援助活動をする立場にいる人の思いを尋ねられる場面もあり、彼らが真剣に人の役に立ちたいと思っていることを、あらためて感じさせられました。（インタビュー・小林良平）



学校に通う子供たちの様子



子供たちに囲まれるクンさん（中央）

スタッフからのコメント パテュムワディー・ジャスック (愛称=クンさん)

私がメーコックでスタッフとして活動を始めたきっかけは、約10年前に大学でガイドの勉強をしていた時にピパット先生と知り合う機会があり、「日本の学生も来るメーコックを見てみないか」と誘われたことによります。最初は日本の友達に欲しいという単純な理由で訪れていたのですが、しだいにピパット先生の考え方や目指していることなどに共感するようになりました。そして大学卒業の頃、ピパット先生や麗澤大学の竹原先生から「スタディツアーのコーディネーターとしてメーコックと関わって欲しい」とお願いをされ、ガイドとしてお手伝いをするようになり、3年前から正式にスタッフとして子供たちのお世話などをするようになりました。

ここでの仕事はもちろん大変ですし、勤め始めた頃は電気も電話もなく、両親はとても心配していました。でも私は、昔から人を助ける仕事をしたいと思っていたので、ここで働けることにとても誇りをもっています。つらいことや悩むことがあっても、子供たちの笑顔を見れば吹き飛んでしまいます。

現在、メーコックは財団として正式に登録されていますが、スタッフが少ないためになかなか思うような活動ができていません。ここで働きたいと訪れる人は何人かいるのですが、彼らのほとんどが「報酬」を期待してやってくるのです。そういった意味で、「まず支援ありき」という財団の本当の目的がまだまだ浸透していないことも問題の一つだと思います。

それでも今は、子供たちが夢を持ちながら元気に過ごせているのが、一番嬉しいことです。彼らには、ここでいろいろなことを学び、将来ひとり立ちできるようになってもらいたいです。ここに留まってスタッフとして働く道を選んでくれる子もいるかもしれませんが、個人的には、社会に飛び出し、もっと広い世界を見て欲しいと思います。これからも財団のため、子供たちのためにできる限りのサポートをしていくつもりです。



麗澤大学で「タイ・スタディツアー」を実施

思い出に残る12日間

麗澤大学で竹原茂教授の引率のもと、8月29日から9月9日までの12日間「タイ・スタディツアー」が行われました。竹原ゼミ生を中心に28名が参加。このツアーは、主にタイ北部にあるメーコック財団の施設(親の麻薬・貧困等による、恵まれない子供たちの教育・生活施設)での体験によって諸問題を具体的に感じ取ることを目的としたもので、今回で16回目を迎えました。

以下に参加者のレポートを紹介します。

スタディツアーに参加して

田 辺 麻 美

麗澤大学 英語学科 3年

2005年の8月29日から9月9日までのスタディツアーの12日間は短かったけれども、私の心に生涯残るであろう12日間となりました。チェンマイ、チェンライ、バンコク、この三ヶ所を訪れ、多くのことを感じ、実際に体験し、そして学ぶことができました。観光、現地の人々との交流、二度にわたるホームステイ、異文化体験、そしてメーコック財団での滞在など、本当にいろいろな要素が詰まった素晴らしいツアーでした。

私は今年の4月から竹原ゼミの一員となり、竹原先生のもとで国際協力とは何か? いったい私たちに何ができるのか? とずっと考えてきました。そしてそれを考えていくうちに、実際に現地の状況を自分の目で見てみたいという思いが強くなり、今回このスタディツアーに参加させていただきました。

このツアー中に私は、自分がどれだけ恵まれているかということを再認識させられました。私たちが暮らす日本には、食べ物も着る物も何でも物が溢れているし、欲しい物はすぐに手に入るし、教育だって受けられます。しかしメーコック財団の子供たちの環境は違います。ここで暮らす24人の子供たちは両親を亡くしていたり、親が麻薬中毒だったり、刑務所に入っていたり、と何らかの問題を抱えているために家庭で暮らすことが困難になってしまった子供たちです。メーコック財団に引き取られなければ、この先の人生を生きていくことさえ困難だったでしょう。そんな彼らが料理や洗濯、掃除などをこなしながら、大きい子は小さい子の面倒をみながら暮らしています。彼らは本当に働き者です。

特に印象深いのが滞在2日目。朝食の準備を手伝おうと私たちは朝の5時に台所に行きました。すると、すでに一人の女の子が野菜を切っているのです。彼女は私たちが現れると、少し恥ずかしそうにはにかみながら挨拶をしてくれました。いくら当番制といえど

も、これだけ朝早くから朝食の準備をするのはとても大変なことでしょう。しかし、子供たちは嫌な顔ひとつ見



メーコック財団の近くにあるパースー小学校見学

せず、みんないつでも笑顔を絶やしません。彼らの生い立ちに暗い過去があるなんて、言われるまで分からないと思います。彼らはメーコック財団で生活できることに本当に感謝していて、学校に通い一生懸命勉強して、職業訓練も真剣に受けています。そんな子供たちの姿を見て、自分は感謝する気持ちを忘れていないことに気づかされました。教育を受けられて当たり前、好きなものが好きなだけ食べられて当たり前……。そんな生活に慣れきっている自分に気づき、反省させられました。

この12日間は、私にとって自分を振り返る良い時間にもなりました。メーコック財団の子供たちと出会って、自分は今の環境に甘えていて、それに対する感謝の気持ちを忘れがちになっていることを感じました。また国際協力のあり方を深く考えさせられた時もありました。日本に帰ってきてからも、その思いはずっと私の頭の中にあります。このスタディツアーで体験したことは、私のこれからの人生の大きな糧となるでしょう。

最後となりましたが、竹原先生をはじめ、このツアーに関わった全ての人に感謝したいと思います。素敵な思い出がたくさん詰まった12日間を忘れずに、これからも国際協力とは何かを模索しながら前に進んでいきたいと思っています。

スタディツアー感想文

岡野奈央
麗澤大学 英語学科 2年



子供たちにごはんをよそってあげる

2005年8月29日、私は希望と不安を抱え、成田空港へ向かいました。去年から麗澤大学のサークル「ブアン」の活動に参加し、タイのこと、メーコック財団のことを竹原先生や先輩方から聞いていましたが、いざ直接スタディツアーに参加するとなると、少々戸惑いもありました。家族からは心配され、反対されました。当初、私にとってタイはまったく想像もつかない異国でした。しかし、今はタイで過ごした一日一日がとても鮮明に頭をよぎり、懐かしさでいっぱいになります。ナイトバザールの活気、不思議な音楽、初めての食べ物、親切で温かい人々、どれも忘れることはできません。街でみかけた子供のことは、今も私の心を締め付けています。汚い格好をして、裸足で近寄ってくる幼い子供たちに、私は言葉を失いました。しかし、そのことを竹原先生に報告すると「世界にはもっと苦しんで今にも死にそうな人がたくさんいる。このくらいでショックを受けてはいけない」という言葉が返ってきました。このとき私は、同じ時代にまったく異なる環境や境遇に生きている他の人々について、とても関心を持ちはじめました。タイだけではなく、もっともっと貧困に悩む国々について勉強したいと強く思いました。

また、メーコック財団での出会いも忘れられません。メーコック財団は、とても自然の豊かな静かな環境にあり、心が和みました。日本では夜更かしして、朝はなかなか起きられず、朝食を食べないことが多かった私に、朝になったら起きて食事の支度をし、一日三回しっかりと食べ、夜はゆっくり睡眠をとるといって人間らしい生活のリズムを改めて教えてくれた気がします。また、子供たちとも触れ合うことができました。まず、子供たちの働きぶりには驚かされました。みんな言われる前に自分から仕事を見つけて動いているのです。



懇親会ではお互い民族衣装を着て交流

食事の準備やそうじなど、やらされているという雰囲気ではなく、むしろ一人一人が責任を持って行っているという印象を受けま

した。メーコックやピパット先生に対する心からの感謝の気持ちの現れなのだと思います。

今回のツアーで最も感動したことは、メーコックの子供たちに本を贈るという活動に関われたことです。6月の初めだったでしょうか、麗夏祭チャリティーイベントの話がブアンのミーティングで議題に上りました。何かしたい、力になりたいという強い思いは皆一緒でしたが、同時に支援の難しさに直面しました。今までの活動では、フリーマーケットや民芸品の販売といった段階までしか関わらなかったため、実際その売上金がどのようにメーコックで活かされているのかは知りませんでしたし、あまり深く考えていませんでした。しかし麗夏祭チャリティーイベントとスタディツアーを通して、イベントの立ち上げや計画、そしてその成果を本という形に変え、直接子供たちの手に届くまで見届けることができたことが大変勉強になりました。そして改めて、支援はただお金や物資を送って終わりにしてしまっただけではいけないと気づきました。現地でどれだけのものが、どのように活用されているのか、きちんと最後まで責任を持つということの大切さを知りました。今回、本を贈るという活動に、一貫して関わることができ、とても幸せに思います。この感動を一人でも多くの人に伝えたいと思います。またこれらの本が、子供たちの勉強や成長していく上で、少しでも役に立つと思うと、とてもうれしく思います。本棚を開けたときの子供たちの笑顔、本を手にとってうれしそうに1ページ1ページ大切にめくる姿に胸がいっぱいになり、涙があふれました。



子供たちに遊びを教えてもらう

今回、反対しながらも、私の「メーコックに行く」という夢をかなえてくれた家族、貴重な機会を与えてくださった竹原先生、ピパット先生、クンさんはじめ、多くの方々から感謝したいと思います。そして、この12日間で得た感動や喜び、また苦悩を心に刻んで、このスタディツアーを私の新たなスタートにしたいです。10年後、私の子供と一緒にメーコックを訪れて、あのタイサクラの木がどうなったか、メーコックの子供たちも大人になってどうしているのか、またこの目で確かめに行きたいです。それが、私の次の夢です。

2度目のスタディツアーを終えて

藤井真衣
麗澤大学 英語学科 4年

今回は「これから教育者になる大人としての自分を成長させたい、メーコックのことをもっと知りたい、私に何ができるのか考えていきたい」という目標をもち、昨年に引き続き、今年もまたタイのメーコック財団へ行くことを決めました。

昨年、私は初めてスタディツアーに参加しましたが、昨年の目的は「竹原先生の活動を自分の目で見せてもらうこと、竹原先生から沢山のお話を聞くこと、そして自分のこれからの道を見極めていくこと」でした。実際タイの場で、言葉には表せないほどの体験と学びをさせていただき、竹原先生からの教育を受けることができました。そして自分の道を「教育者になる」ということに決心できたのも、この旅でした。自分の考え方を大きく変えることができた貴重な経験でした。

帰国後、私は大変幸運なことに教育者という道に進める切符を手に入れました。そして、竹原先生と沢山お話をさせていただく中で、自分自身が更に人間を深め、先生の教えと麗澤の精神、そしてピパット先生の思いをしっかりと受け継ぎ、責任をもって真の日本人、国際人をつくり出す教育の手助けをしていかなければならない、と強く決心いたしました。

今回のスタディツアーでは第二グループとして後から合流しましたが、麗夏祭の収益金で本棚と本をプレゼントするプロジェクトが達成でき、ピパット先生や子供たちにも喜んでもらうことができました。また、この結果を日本のみなさんに伝えたら日本のみなさんの心の中にも大切なものが残る、全ての人々にとってプラスになる大変大きな意義のあるプロジェクトを達成したのだと思います。ピパット先生、竹原先生に教

えていただいたとおり、道のりは大変でもこのようなプロジェクトが毎年続いて、持続可能な協力と心の教育がしていけたらいいな、と思います。

また、今回は特別にカレン族の村にホームステイもさせていただきました。初めての外国人を受け入れていただき、大変もてなしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちが浴衣を持っていき、文化交流もすることができましたし、夜も言葉が通じない中、楽しい家族団欒の時を過ごすことができ、大変感謝しています。

私は来年4月から一人の教育者として社会に出ることになります。まだまだ未熟ですが、大学生になって竹原ゼミで竹原先生から教わったこと、そして二回のタイスタディツアーで自らの体験を通して感じ、学んだことは大変意味のある、私の財産です。

今回のメーコックの滞在でも、ピパット先生や、スタッフのクンさんとも沢山意味のあるお話をさせていただくことができました。私はまだまだ未熟ですが、これから日々目標を持ち努力を重ね、竹原先生とピパット先生の意思を継いで麗澤とメーコックをつなぐ架け橋の一人になっていけたら、という思いでいっぱいです。そして、そのような志を受け継いでくれる学生育成のために精一杯の努力をする所存です。



タイの子供たちと仲良く遊ぶ

竹原基金のご案内

竹原基金は、タイやラオス、カンボジアなど東南アジアの貧しい子供たちや少数民族の子どもたちの教育等を支援するために活用されます。何卒ご支援とご協力をお願い申し上げます。

お振込先について

* 郵便局振替の場合は、通信欄に「竹原基金」とご記入ください。

郵便振替：口座番号 00120-6-499164 名義：(財)麗澤海外開発協会

* 銀行振込の場合は、下記の専用口座をご利用ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行 松戸西口支店 普通 1286464 名義：竹原基金口

銀行口座の変更のお知らせ

当方取引銀行の東京三菱銀行がUFJ銀行との合併に伴い、平成18年1月1日(日)より、銀行名および当方取引の支店名が変更となります。つきましては、平成18年1月4日(水)以降の当方宛のお振込みは下記「新銀行名・新支店名」をご指定くださいますようお願い申し上げます。

新銀行口座：三菱東京UFJ銀行 松戸西口支店 普通4057567
名義 (財)麗澤海外開発協会

連載コラム

パンジャブにて即席カレーを想う

第3回

パンジャブはインド北西部とパキスタン北東部にまたがる地域である。インダス川とその支流の恵みで豊かな穀倉地帯となっている。第二次大戦後、両国分割の際にこの地域も引き裂かれることになった。

インド・パンジャブ州のアムリツァルの街を歩くと、私たちがステレオタイプで思い描く「ターバンに髭面」のインド人に多く出会う。その数はデリーやコルカタの比ではない。アムリツァルはシーク教徒の聖地である。ターバンに髭面はシーク教徒のシンボルなのである。シーク教徒の男性は髭を剃らず髪も切らない。肉食も禁じられていないため体格も良い。あの立派な

ターバンの中には髪がとぐろを巻いているのだ。

インドの人口比ではシーク教徒は2%にしか過ぎない。その習俗がインド人の典型と思われているのは興味深い。その理由としてシーク教徒の教育水準の高さがあるらしい。高級官吏や商社マンとして世界中で活躍する機会が多い。そのため、ターバンが海外でインド人のシンボルになったようだ。

私のインドとの出会いは、何といてもカレーライスだ。それも母親が作る即席カレーを使ったものだ。「ハウス印度カレー」「グリコワンタッチカレー」「明治キンケイカレー」「特製アスビーカ

レー」、これらはテレビコマーシャルの普及と共に私たちの記憶に刻まれている。特に「インド人もびっくり」というコマーシャルはインパクトがあった。ターバンを巻いたインド人(芦屋雁之助)が、アスビーカレーの美味しさに飛び上がるというものである。当時小学生の私は、「インド人もびっくり」が気に入ってこのフレーズを授業中多発し、何度もげんこつを食らう羽目になったことを覚えている。

パキスタン国境に向かうこの街で、ターバンを巻いたインド人の本格的キーマ(ひき肉)カレーを食べながらつぶやいた。「インド人もびっくり」……。

(A.K)

(財)モラロジー研究所主催「生涯学習フェスタ2005」に出展しました

10月2日(日)、千葉県柏市にある(財)モラロジー研究所主催の「生涯学習フェスタ2005」に参加し、ネパールとタイへの支援活動を紹介するパネル展示と手工芸品販売を行い、ご好評をいただきました。フェスタのテーマは「家族のきずな・地域のふれあい」。秋晴れにも恵まれ、1万人というたくさんの親子連れがネパールやタイという異国の地に興味を持ってくださったようでした。



民芸品グッズ販売の様子

— ネパール現地報告 —



よもぎの収穫

4月中旬から5月初旬まで雨や曇天の日が続き、よもぎ収穫は一昨年、昨年より大幅に減りました。収穫に一番適した時期の4、5月の天候次第で収穫量が決まりますが、今年は近年になく集まり方が悪く、また持ち込まれた乾燥よもぎも湿りがちでした。幸い昨年の乾燥よもぎのストックが5,000キロほどあるので、来年の天候に期待したいと思います。



植物オイル抽出器

植物オイル抽出機を導入しました!

以前からの願であった植物オイル抽出機を導入することになり、先日バラバラに分解された機械が届きました。

しかし、運送業者は重さ1トン以上もの部品をどーんと狭い庭に置いたまま帰ってしまいました。翌日、近所の人に手伝ってもらい、邪魔にならない場所に移動しましたが、15人かかっても容易に動きませんでした。設置にはインドから専門技術者が来るそうですが、1トンもの重さの部品をどうやって移動させたり吊り上げたりするのでしょうか。クレーンなど入る余裕のない狭い敷地なので、スタッフも心配しています。

完成したら、手始めによもぎオイルを抽出したいと思っていますが、もぐさと違ってすべて生葉を使用します。したがって多少の雨や曇天でも採集に差し支えませんが、その日のうちにポイラーに入れ、火をつけなければなりません。よもぎ印の植物オイル、今から出来上がるのが楽しみです。

現地駐在
畑 美奈栄(鍼灸師)

タイ・スタディツアー参加者募集!

生活習慣の違いや子供たちの教育現状などを実際に体験することで、援助を必要とする国への理解を深め、自らの新しい可能性を発見してみませんか。

【期間】 平成18年2月12日(日)～2月19日(日)(8日間) 2月11日 事前研修会

【訪問先】 タイ・チェンライ県 メーコック財団

【参加費用】 140,000円

- ・含まれる費用: 往復航空運賃、空港使用税、期間中の宿泊費・食費・移動費、コーディネート費
- ・含まれない費用: 旅券(パスポート)、海外旅行傷害保険費、集合前及び解散後の移動費
その他個人的諸経費、自由行動中の諸経費

【応募資格】

- ・年齢18歳以上(20歳未満の方は保護者の承諾書が必要)
- ・健康状態が良好な方
- ・当協会の活動に関心がある方

【募集人数】 10名(定員になり次第締め切り)

【申込締切日】 平成18年1月20日(金)

【お問い合わせ・申し込み先】

(財)麗澤海外開発協会 事務局(岡戸)

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL: 04-7173-3165 FAX: 04-7173-8953



タイのメーコック財団にて

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成17年4月から平成17年10月末日)

会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成およびクリニック兼もぐさ工場を運営する事業等に役立させていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

種類	年 額
個人会費	1口 1万円(1口以上)
法人会費	1口 1万円(3口以上)
一般寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替: 口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座: 三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通4057567

名義(財)麗澤海外開発協会

個人会費

鷺津邦男、廣池英行、岩崎義夫、桑島義智、松浦鐵三、嶋田順子、岸本收、琴谷達郎、野村隆紹、中村修一、渡辺价儀、古川定色、浜本勝利、發坂卓雄、高松洸、杉浦廣道、高松宇佐雄、内田八代、渡辺康博、新井秀啓、福澤清治、館林正孝、大村金三、宮崎珠徳、高橋博美、甲良昭彦、山田雅雄、廣池幹堂、横山守男、林正勝、星野恵昭、宮本晴夫、西村マサノ、上村卓三、今井収、大河原良雄、梅村元成、荒川竜太、金子武正、望月一雄、藤森忠雄、徳永陽子、桑山清和、寺西修三、荒木郁雄、長谷篤治、山崎純雄、宮島達郎、白木和彦、白木ふさ子、関哲夫、山本幾雄、木下廣太郎、斎藤久子、林正勝、藤村薫、北村守、竹原茂、山本祥子、野田好秋、平川恵一、杉一郎、宮脇常夫、工藤省造、工藤信一、永田善幸、松本哲洋、小西直之、小嶋義佑、宮本勝子

法人会費

徳山モロロジ事務所(原田忠)、ジャトー株式会社(小野剛)、株式会社スーパーバリュー九州本部(杉一郎)、海部津島モロロジ事務所(浜島千恵子)、野田ミート株式会社(野田好秋)、株式会社ダイキョープラザ(杉一郎)、株式会社小松製菓(小松務)、佐藤薬品工業株式会社(佐藤又一)、カメヤマ株式会社(新庄哲三)、大田モロロジ事務所(松田貞夫)、横山印刷株式会社(横山明弘)、有限会社白木園芸(白木和彦)

一般寄付金

望月雄二、奥村一孜、原田忠、山田荘一、柏谷康博、發坂卓雄、島村弘子、高松洸、藤本秀雄、内田八代、館林正孝、斎藤久子、御代川克之、小西幹夫、鷺津邦男、甲良昭彦、山田雅雄、廣池幹堂、横山守男、小林良平、木野千代子、竹政三和、青木郁予、大山圭子、井田孝、高橋孝次、小山松男、徳永陽子、桑山清和、荒木郁雄、長谷篤治、横尾昭男、関哲夫、山本幾雄、木下廣太郎、井上健、田島政芳、阿部榮次、相川修治、宮脇常夫、小西直之、徳山モロロジ事務所(原田忠)、株式会社アイディ(伊藤一郎)、株式会社赤塚植物園(赤塚貞良)、株式会社スーパーバリュー九州本部(杉一郎)、佐野モロロジ事務所(栗原康男)、高知県モロロジ協議会(中平明)、アサヒ株式会社(大賀康弘)、坂井モロロジ事務所(伊藤忠雄)、岐阜西モロロジ事務所(所一彌)

竹原基金

廣池英行、ウヰマツ文子、松浦鐵三、飯島孝夫、岸本收、發坂卓雄、高松洸、柏谷康博、中村修一、小山 晋平、加藤栄一郎、内田八代、館林正孝、星井道雄、宮脇常夫、高橋秀治、御代川克之、松本哲洋、井上千多枝、甲良昭彦、横山守男、山田雅雄、廣池幹堂、小西直之、小林良平、西村マサノ、林芳子、大山圭子、徳永陽子、荒木郁雄、長谷篤治、柏谷康博、木下廣太郎、山本幾雄、白木和彦、関哲夫、安達俊子、竹原茂、山本祥子、横溝久子、加藤信次、宮本勝子、三保博子、徳山モロロジ事務所(原田忠)、ジャトー株式会社(小野剛)、新潟モロロジ事務所(小林誠司)、株式会社スーパーバリュー九州本部(杉一郎)、株式会社小松製菓(小松務)、東京北モロロジ事務所レインボー会、高知県モロロジ協議会(中平明)、坂井モロロジ事務所(伊藤忠雄) (敬称略)

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局: 04-7173-3165)